

1. 現状

空き家は、世帯数の減少や家屋の立地条件の悪さ等により、増えつづけている。平成25年の全国の空き家率は13.5%だが、平成45年には、30.4%にまで増えるとの発表もある。



2. 視察の目的

空き家対策を大きく3つに分け、先進地を視察し、今後の空き家対策について考察する。

	視察先	取組事例
管理対策	福岡県宗像市	一般社団法人等と連携し、様々なサービスを案内。
利活用対策	広島県庄原市	市が空き家を改修し、改修施設の運営を業務委託。
	広島県尾道市	NPO法人が、空き家の改修から定住までを支援。
除却対策	長崎県長崎市	市が、空き家の寄付を受け付け、寄付された施設を除却。



3. 視察した結果、学んだこと

- (1) 空き家対策は、予防・管理・利活用・除却の4つの柱を軸に実行していくべきであること。
- (2) 今後も空き家が増え続けるとの予測があるため、空き家対策の継続性も重要であること。
- (3) 行政がもつ能力やノウハウだけでは、十分な空き家対策を実行できないため、「行政 × 企業 × 住民」が三位一体となって、空き家対策に取り組むべきであること。

